

Numero TOKYO

MAY 2014
ヌメロ・トウキョウ
667円(税抜)

代目
Soul Brothers
スペシャルインタビュー&
AKOが撮る
メンバーの素顔

世界のクリエイターが注目する
ファッションアイコンに密着
**可愛すぎる
水原希子**

セレブリティもエンタメも!
キラキラに夢中☆

中杏子のスタイリング講座
アンウェイルックを
リアルに着こなす術

ますます美しくなるのはなぜ?
中川遥を大解剖

母になる”寿命と健康は腸で決まる
妊娠力と腸の関係

た目も中身もぐっとくる俳優
表現者 クオン・サンウ
その魅力の秘密

インタビュー
栗野真千子 / 渡部篤郎

76

Dazzle



〈上段左から〉SHUN、葉梨斗 (SMAPPAIHANS AXEL
VON FERSEN所属) 風華麗 (APITS所属) 宮本武蔵
(OPUST所属) / すべて私物

キラキラ女子のリアルに接近

いつでも本気モードの女性はキラキラ輝く存在。

リアルライフを探るべく、人生をアートで彩るアーティスト、
人気モデルの敏腕マネージャー、目利きのクリエイティブディレクター、
ウェブ発のファッションista美女の4人に接近。

Chim↑Pom エリイ

祝
♥
結婚



Photos: Takaki Kumada / Styling: Keiko Hitotsuyama / Hair: Eiji Kadota /
Makeup: Yoshiyuki Wada / Location: Smappai Hans Axel Von Fersen

アーティスト集団Chim↑Pomの紅一点、
エリイが結婚！
お相手は、歌舞伎町のプリンス手塚マキ。
新宿の路上で行われた「ウエディング・デモ」は、
Chim↑Pomの作品としても発表された。
アートに生きるエリイの結婚に直撃。

108

〈エリイ〉ジャケット ¥413,000(参考価格) スカート ¥291,000(参考
価格) ネックレス ¥251,000 / すべてLanvin(ランバン ジャパン)
〈マキ〉ジャケット ¥250,000 シャツ ¥42,000 パンツ ¥92,000 /
すべてLanvin(ランバン ジャパン) ネクタイ / スタイリスト私物

新宿で行われた結婚デモ行進は、深夜からのパーティ後にもかかわらず、年齢、職業、性別を問わず、二人の友達が大量参加した。新宿警察署に出した申請書が結婚パーティのインビテーション(写真下)。エリイさんのドレスはBaby Doll Tokyoオーナーであり、友人である緑川ミラノさんが3日前に製作。ごみ袋で製作するというアイデアが秀逸！新郎マキさんのタキシードはグッチで購入。最後は平等の象徴、LOVEの彫刻前で。



Photos: Leslie Kee (1), Kishin Shinoyama (2,3)
(左) Design: Hidenori Yoshioka Photos: Kenji Morita



で美術書を読んでたぐらいいですね。
——美術は好きだったんですね。
M 専門的に知識があるわけではなかったのですが、小さい頃から見るのは好きでした。祖父や母がよく絵を描いていましたし。
——ホストとして働き始めた後、今に至るまでは？
M 26歳のときに独立して、今年で11年目です。今はホストクラブが4軒とバーが4軒、高円寺のワインスクールとピストロ、ヘアサロンなど十数軒のお店を経営しています。従業員は150人ぐらいでしょうか。
——今回の結婚パーティもデモも、マキさんがずっと働いてきた新宿で行われました。お二人にとって、新宿という街が持つ意味は？
M 原宿とか六本木ってどの国にも似たような街がある気がするんですけど、新宿だけはつくろうと思ってもつくれない。俯瞰して見ると、いったい何が起きているんだろう、ここはと。混沌として、グチャグチャだけど、そのおかしいものが自然に成り立っていますよね。この街にいて、この街を見てきて、これからもっと面白くなると思っています。
E もともと六本木が好きなんだけど、私は街に恋してるんですよ！渋谷、新宿、六本木が大好き。渋谷と六本木で育ったし、新宿は高校生の頃にずっと通ってた懐かしい場所。だから、街に得意な人が好きなんです。彼は新宿代表だから結婚したんです。
M 花園神社があてがった新宿代表でしよ(笑)。
E 結婚してまた新宿に来るようになったんですけど、新宿のテーマって「平等」らしくて。そうなんですよ？
M 俺はそう思ってるけどね。

E だから私たちがやった結婚デモも、別に誰がいてもいいというか。風林会館での結婚パーティも、みんな職業とか関係なく平等なんです。いろんな友達がいるけど、みんな一つになっているんです。結婚おめでとう！ということ。それは新宿という街のカラーだなと思って、デモで歩いている最中にもそんな話したよ。
M 「結婚」が持つパワーもあるよね。
E そう、結婚ってすごいなって思った。例えば今までもたくさん作品を作っているんな人に協力してもらったんですけど、みんなが一つの方向を見て参加するっていうパフォーマンスは初めてだった。今回こういう作品を作ることになって、いかに世間で結婚がおめでたいと思われているのかがわかった。パーティも夜中の2時から昼の12時まで続いて、みんな本当に残ってくれるのになって心配だったんですけど、ほとんどの人が最後までいてくれて。いつも一緒に飲んでるときはすごく早く帰るのに、今日は何なんだ、一体、みたいな(笑)。
——結婚パーティからChim↑Pomの作品となったパレードまで、どうやってこのイベントを企画したんですか？
E まずエリイが結婚するというこの意味をChim↑Pomですごく考えて、コンセプトからデモの流れを練りに練って、結婚式が出来上がったんです。メンバーが新宿を歩いていたら、ロバート・インディアナのLOVEの彫刻にたどり着いた。これは著作権フリーなんです。自由で平等なんです。だからこのLOVEの前で解散しようってアイデアを考えて、警察署にデモの申請を出して。ちょうど猪瀬前都

(エリイ)
東京都生まれ。2005年、アーティスト集団Chim↑Pom結成。社会的なテーマを扱い、国内外で議論を呼び注目を集める。4月には写真集『エリイはいつも気持ち悪い』(¥2,800予定/朝日出版社)を発売予定。

(てづか・まき)
埼玉県生まれ。ホストクラブSmappal Group会長。ホストを中心とするボランティア団体「夜鳥の界」を立ち上げ、定期的にゴミ拾いなどを行う。著書に『自分をあきらめるにはまだ早い 人生で大切なことはすべて歌舞伎町で学んだ』(ディスカバー・トゥエンティワン刊)。

Interview&Text: Mika Koyanagi

知事が辞任して、選挙カーが走るかもしれないからこの日は難しいかも、とかずつと交渉してました。でも、結果すべて滞りなくできたのは、たぶんこれが「結婚」だったからだと思います。疲れてみんなが帰ってしまったら、デモ中に誰かが泥酔して殴りかかったり...とかいうこともなかったです。おめでたいことなんだからと、みんな良いほうへパワーが働いた感じ。
M 僕は、これはChim↑Pomの作品なので、パフォーマン스에参加する意味をすごく考えました。それで結論として、僕らホストの仕事って「その瞬間その場所にいた人にかけること」のできない感情をつくる」ってことで、あの日参加した会社のスタッフも友達も、みんなが体験したことのないような感情になれたら、それが僕らの仕事の意義だったわかってもらえる機会かなって。でも瞬間だけではなく、それをパッケージングするっていうChim↑Pomのメンバーの考え方や、準備の仕方はやっぱりすごいなって思いましたね、本当に。何よりもいいマネジメントセミナーになったってスタッフが感嘆してました(笑)。

最初で最後の(?) 夫婦対談



現代アーティストと
元ナンバーワンホスト、
社会の異端同士が
結婚という制度に
則ってみた！
二人にとつての
結婚とは？

——「結婚おめでとうございます。まずは二人の出会いを教えてください。マキ(以下M) エリイ(以下E) 出会って足掛け3年です。でもその前から私のことを知ってたんだよね？」

Mキ(以下M) うん。何年か前にエリイが出ていた番組に、ウチのホストクラブの男の子たちが出て。そのとき僕は彼女に会いたくて、付いていったんですけど、そこでは会えず。でもその番組の演出家が共通の知り合いだったので、その後、一緒にロボットレストランに行きました。

E 演出家が「エリイちゃん、ロボットレストラン行くよ」「行くよ」って。二人で行くのかなと思ってたら、歌舞伎町のプリンスが案内してくれるって言われて。で、風林会館の前で「あ、どうもこんにちは」みたいな感じ。でもその日は彼のパーに行つたくらいで、結構すぐ帰りましたね。

——そこからはトントン拍子に？

E 偶然共通の知り合いが三人くらいいたんです。あるとき飲んでたら、友達から「マキさんいるから飲みに来なよ」って2回電話が来て、行つたらいて。その日に付き合おうよと言われて、付き合つて1年後に結婚しました(笑)。

M 僕自身、結婚はすごく自然な流れだったんです。

E 私は区役所で判を押したくないし、とは言ったものの結婚は経験したことがないのでやってみよう！とは考えていました。結婚するってイケてる！って。Chim↑Pomのメンバーもこの前、一人結婚したんですけど、まず私が先陣を切らないと、ということも強く思つて。ところで何で結婚したかったの？

——「結婚はしたくない」とマキさんが話している過去のインタビュー記事

を読みました。

M 昔は結婚というものの否定的な気持ちがあつたんです。ホストという職業柄、社会的な地位や立場が得られないと思つていて、結婚だけ社会のルールに則つてハッピーを得るっていうのは違うかな。でも会社がだんだん大きくなり、社員も増えていって、否が応でもそれは社会のルールに則つて。だから僕も会社も、その中でちゃんと確立しようと思つようになってきました。エリイには初めて会つた時から、自分の分身のような、一部のような気がしたんです。欠けてた部分が見つかったような。だからずっと一緒にいるということが自然なことなんです。

——プロポーズの言葉は？

M スナックで言つたよね？

E カラオケで「結婚しよう」みたいなうちのメンバーの岡田くんがムービー撮つたね。何回も言つて、私はやだよ、やだよって言つた。

——めげなかつたんですね(笑)。

E そう、ロマンティックなんです、彼は。「明日も楽しくなるね」みたいなことを言うんです。でもいちはん初めにいいなと思つたのがそこでした。前向きですごく優しいな。人に対しても寛容というか、考え方が大らかなんです。

M 僕は本来そういう人間じゃなかつたんです。小学校のときは、嫌なことがあつたら一年間ずっとヤダというような性格でした。だけどずっと人と関わる仕事をしてきて、ある程度諦めも出てきて。いちいち悩んでいたらキリがないと思つた。それはエリイが言ってくれているように、人に対して優しい分にはいいと思つて、たぶん自分も甘やかしてしまつた部分もあるんです。エリイは僕にいつ

も厳しく言ってくれる。それが、自分の軸を思い出させてくれるんです。言つてやることとやることがブレちゃったりするので。その点、エリイはブレない。尊敬します。

E 私は新宿で働いているところに惹かれました。お酒を飲むのが好きなので、街で会おう人と結婚すると思つていて、六本木の人と結婚するだろうなって予想していたんですけど、新宿の人でした。ちよつと地域がズレた(笑)。

M 花園神社でお祈りしたからなんじゃないの(笑)？

E ああ、そうだ！私が美大予備校に通つたときからお参りに行つたから、花園神社があてがつたのかもしれないね(笑)。

——マキさんは19歳からホストクラブで働き出したそうですが、どんな子どもでしたか？

M 小中高とスポーツが得意で成績も良く、非常にモテモテの学生時代でした(笑)。中学の卒業式では、制服から何から全て見事になくなりましたね。

E 会つたときは、俺は東京中の女の子とセックスしたつて言つたね(笑)。

——ホストの道へ進まれたのは何故？

M 大学へ進学したものの、前期の微分積分の試験中「俺は何をやつてんだ」と思つて、そのまま白紙でテスト用紙を出して、二度と学校には行きませんでした。求人誌で見つけたホストのアルバイトを始めていて、ホストを選んだのは、たぶん今までの自分と真逆のことをしたかつたから。高校がすごく自由だったので、大学で自由を謳歌したいという気持ちもなかつたし、また4年間同じように勉強したり、目的を見つけないために過ごすというところに魅力を感じられなくて。大学に行つて何をやってたのかと振り返ると、図書館